

これからの (?) 道徳教育の行方

本当にいいの?

毎日新聞 平成26年10月22日(水)

道徳を「特別教科」

18年度にも 検定教科書導入

中教審答申

文部科学相の諮問機関「中央教育審議会」は21日、現在教科ではない小中学校の道徳を教科に格上げするよう下村博文文科相に答申した。答申は現行の道徳授業が形骸化している点を問題視。国の検定教科書を導入するなど教科化した上で評価もすることで改善を求めた。同省は今年度中に道徳に関する学習指導要領の改定案と教科書の検定基準を示す。教科書を使った授業は2018年度にも実施される予定。

(3面にクローズアップ)

道徳は現行の学習指導要領では「教科外活動」で、授業は週1コマ実施されている。答申は「道徳教育の特質を生かした授業がされていない」「学校や教員によって指導の格差が大きい」などと指摘し、教科化によって早急に改善することが必要とした。

「特別の教科」として、他教科のよきな数値ではなく記述式にするなどから「特別の教科 道徳(仮称)」と位置づける。授業時数は現行同様、週1コマで、学級担任が教える。学習内容は、現行の学習指導要領が示す①自分自身に関すること②他の人との関わり③自然や崇高なものとの関わり④集団や社会との関わり――の四つの視点

をふまえて、新たに、インターネットの正しい使い方などを教える「情報モラル」や生命倫理といった社会問題も扱うよう求めた。現在の指導方法が「読みの登場人物の心理理解のみに偏った形式的な指導や、分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業がみられる」と指摘。児童生徒による討論や問題解決型の授業を積極的に取り

入れる必要性を強調した。複数の学校で道徳教育の指導役となる「道徳教育推進リーダー教師(仮称)」の設置も提案した。教材は、検定教科書が適当としなが

中教審答申 道徳教科化に関する 骨子

< 骨子 > 教科に格上げ 道徳授業が形骸化 検定教科書を導入 評価もすることで改善 2018年実施

< 現状の問題点 > ・道徳教育の直性を生かした授業がされていない ・学校や教員によって指導の格差が大きい =>現在の指導方法が、読み物の登場人物の心理理解のみに偏った形式的な指導や、分かり切ったことを言わせたり、書かせたりする授業

< 改革案 > ・学ぶ内容に「情報モラル」や「生命倫理」など現代社会の課題も盛り込む。

「やってみよう!新しい道徳授業」みらいの道徳をつくる会 より抜粋

「資料」のお話をもとに自分の振る舞いをチェックさせ、反省させたり決意表明させたりすることが、道徳授業だと思いませんか?

わかったつもりでいる子どもたちが、授業の中で「ドキッ」とすると、初めて「わかっている」と思っていた問題を見つめ直します。そして、自分なりに改めて問題を吟味し、意味づけをし、道徳的な行為を自発的に生起させる「自分の思い」を創りだします。子どもと教師が共に考え、探究していく道徳授業へと変わっていく必要があります。

<これからの道徳教材> 道徳授業で子どもたちに培う道徳的な力として、道徳的心情の深まりを前提とした道徳的な知識、道徳的な判断力や洞察力、道徳的課題解決力や実践スキル等々が考えられます。これらの力を育もうと思ったら、読み物資料だけでは不可能です。これまでの旧態依然の授業を推し進めるなら、子どもたちにとって何の切迫感も伴わないで終わるというのが必然です。今後は、モラルスキルやソーシャルスキルトレーニング型プログラム等も多様に開発されるでしょう。

<道徳の教科化> 「実効性のある道徳授業」「教育効果が具体的に見える道徳授業」へ 転換

<その背景として> 深刻化する子供たちの閉ざされた心の問題への積極的教育的対応

<目指す道徳授業は> 子どもが本気で自分をみつめ、本気で自己成長を鼓舞するような 「生きて働く力」を培う場として道徳授業を改革していくこと

らも、郷土資料など地域による多様な教材の併用を求めた。教科書を使った授業

は18年度からの予定だが、同省は来年度から教科化を見据えた授業ができるよう

に、今年度中に教員向けの指導書を作成する。

【三木陽介】